

愛妻物語 (1951)

メディア 映画

ジャンル ロマンス ドラマ

製作国 日本

色彩 B&W

時間 97分

初公開日 1951/09/07

【解説】

新藤兼人の監督デビュー作。本作でも脚本と監督をつとめ、主演には乙羽信子を迎えた。実際のエピソードを数多く盛り込みつつ、駆け出しのシナリオライターを描いた、新藤兼人の自伝的作品。

脚本家見習いの沼崎敬太は、下宿先の娘だった孝子と駆け落ちし、東京で生活を始めた。敬太は東京の撮影所で脚本研究生をしていたが、戦争の影響で映画会社の規模が縮小。敬太は孝子をともなって京都へ行き、有名な映画監督である坂口の仕事をもらった。孝子の内職による収入を家計として、敬太は脚本を書き上げるが、坂口監督から酷評され脚本を返されてしまう。孝子はさらに内職を増やし、敬太は勉強に集中。ついに書き上げた脚本が坂口監督に認められるが、孝子は無理がたたって喀血してしまう。

【クレジット】

監督 新藤兼人

脚本 新藤兼人

撮影 竹村康和

美術 水谷浩

編集 西田重雄

音楽 木下忠司

特殊撮影 松村禎一

助監督 天野信

出演 宇野重吉 沼崎敬太

乙羽信子 石川孝子

香川良介 石川浩造

英百合子 石川弓江

滝沢修 坂口監督

清水将夫 増田

菅井一郎 所長

原聖四郎 製作部長

伊達三郎 太田作之助

殿山泰司 安さん

大美輝子 内儀さん

堀北幸夫 シナリオ・ライター

菊野昌代士 シナリオ・ライター

柳恵美子 芸妓